

重点目標	中期経営目標	短期経営目標	具体的取組	自己評価		次年度に向けての改善策	
				達成状況	評価		
学力の向上	基礎・基本の確実な定着と、一人一人のよさを生かす教育	Society5.0に向けて、個別最適な学びと協働的な学びの往還を実現し、基礎・基本の確実な定着を目指した指導の充実	・教師の専門性を生かした専科制（理科・外国語）や習熟度別学習指導、少人数指導等、指導体制・指導方法の工夫を行う。	・概ね3年生から6年生の算数習熟度別指導、外国語活動のT・T指導を実施した。しかし、1学期間、人材が見つからずに、高学年の算数習熟度別学習はできなかった。 ・家庭の教育力が高く、学習習慣はおおむね定着している。 ・ICTによる授業の充実が徐々に浸透してきた。	B	・習熟度別に学べる少人数算数指導を、次年度も3年生以上で継続する。（人材の確保） ・ICT機器を活用した授業改善を今後も継続的に行う。	
		「分からないことが分かる楽しさと喜び」を体感できる授業の充実	・全ての子供の学習権の保障を行い、「教える」授業から「学ぶ」授業への転換を進める。また、子供の「分からない」を引き出し、「分からないことが分かる楽しさと喜び」を体感し、振り返りを大切に授業の充実させ、指導のPDCAサイクルの日常化を図る。	・年度末のアンケート調査で、92%の児童が「説明や指示が分かる」と答え、89%の児童が「授業に進んで参加した」と答えた。	B	・「『分かる・できる楽しさと喜び』を体感できる授業」に向け、引き続き、計画・実施・評価・改善を行っていく。	
		個のよさを生かす教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点に立った授業改善を図るとともに、ICT機器・教材を活用して、子供たちに主体的・対話的で深い学びの実現に取り組む。	・電子黒板の活用は、全ての教員でほぼ日常化している。 ・一人一台のタブレット端末の活用回数が増え、効果的な使い方についても深まりを見せている。校内における研修機会も頻繁に設けることができた。	B	・一人一台タブレット端末とアプリの扱いに慣れさせることで、対話的な活動の時間をより多く確保していく。	
		SDGsの視点に立った教育活動の展開	・持続可能な社会の創り手となることが期待される子供たちへの質の高い教育の実現に取り組む。	・総合的な学習の時間や各教科においてSDGsに関する学習に取り組み、興味・関心を高めることができた。	B	・今年度の取組を振り返り、年間指導計画の作成に生かしていく。	
	ONLY ONEとしての誠之小学校	新しい学校の創造と適正な運営	・誠之小学校方式による「学校運営協議会」の充実を図る。	・学校運営協議会12回（うち参加型1回）を実施した。	B	・令和5年度の第Ⅲ期工事竣工に向け、引き続き区との情報共有に努め、児童の教育活動の充実のために意見を伝えていく。	
		「子供を育てる」学校から「子供が育つ」学校としての取組の充実	・知識を教えるだけでなく、子供たちが主体的に取り組み、自ら育つための基盤づくりを実施する。	・子供を褒める3要素を励行、児童の主体的に取り組んでいこうとする意欲を育んだ。 ・特別活動を充実させるべく、学級の掲示物などを作成し、全校共通理解のもとに、取り組むことができた。	B	・児童が認め合い、高め合う思考性や行動力をもつリーダーの育成を図っていく。 ・特別活動の充実を図り、子供たちが主体的に取り組めるようにしていきたい。	
		「人のよさを認め合い、高め合う子供」をテーマとする校内研究の充実	・国語科を中心に、思いや考えを伝え合う活動の実践する。	・様々な講師を招いて、国語科を中心とした授業研究会を全学年実施することができた。 ・テーマである「人のよさを認め合い、高め合う子供」が国語科以外の授業においても少しずつ取り組めるようになってきた。	B	・「人のよさを認め合い、高め合う子供」の達成のために、来年度も研修に励む。 ・研究の中心となる教科について検討している。	
		特色ある活動の継続実施	・「副読本『のびゆく誠之』」「誠之カルタ」を活用した指導を実施する。また、「学校2020レガシー」として、「日本人としての自覚と誇り」を育む指導の工夫をする。	・今年度は、大会ではなく、各学級で誠之カルタを使ったカルタを実施し、児童が伝統精神を学んだ。 ・地域学校協働本部がPTAの親子〇〇教室を実施した。 ・邦楽鑑賞教室、和太鼓体験、鼓体験、狂言の授業を実施した。 ・和食の日を実施した。	B	・引き続き特色ある教育活動を実施していくため、予算を確保する。 ・2年後の150周年行事の円滑な実施に向け、学校運営協議会、校友会、PTAとの連携を密にして準備を進めていく。	
		義務教育9年間を見通し、学習規律の徹底を図る教育活動の充実	・小・中学校間の連携による小学校から中学校への円滑な接続を行う。	・9年間使用するキャリアパスポートの重要性を共通理解し、学期に一度の振り返りを共通実践した。	B	・自身の成長を振り返ることができるキャリアパスポートを今後も活用する。確実に保管し、受け渡していく。	
	豊かな人間性の育成	豊かな心と社会性を育む道徳、生活指導	子供の生命・安全・健康への十分な配慮と安心できる居場所づくり	・日常的な感染予防対策の徹底し、子供たち自身が安全を確保することのできる基礎的な資質・能力の育成する。さらに、全ての子供が自己肯定感を高め、存在感をもてる教育の実践を行う。	・コロナが5類になったが、校内では引き続き、感染症対策は行っている。（手洗いの励行など） ・避難訓練を月に1回実施した。予告なしの訓練も取り入れ、自分の身は自分で守ろうとする意識と技能を高めた。	B	・第Ⅱ期校舎完成に伴い、避難経路等について全教職員で確認する。 ・児童の生命・安全・健康を守っていくため、敷地内の見回りや区への報告等を実施していく。
			自己決定を大切にしたい自律心を育む生活指導	・「誠之の心得」に基づく、「誠之のきまり」をみんなで守る生活指導の徹底する。	・「誠之人道」の意味をよく理解し、意識している児童が増えている。 ・よい行為をする児童を全校朝会や学級の会で称賛し、広めることができた。	B	・新しい生活様式や新校舎での学校生活に即した決まりを構築できるよう、検討を重ねていく。 ・児童自らが考えて行動したことを大きく評価し、プラス思考の生活指導に取り組む。
			心にゆとりをもった楽しい学校生活と好ましい人間関係の構築	・子供を褒める3要素（結果より過程を、自分よりも人のことを、模倣・空論より創造・実践を）、叱る3基準の励行（人権、生命、迷惑）を実施する。	・褒める3要素を意識した生活指導を実践した。 ・スクールカウンセラーによる5年生の全員面接を実施した。 ・いじめの早期発見解決に向けて、児童へのアンケートを実施した。	B	・いじめの兆候を見逃さないよう、教職員のアンテナを高くし、今後も事前指導に力を入れる。 ・保護者との連絡を密にし、問題解決に向けて協力する態勢をとっていく。
社会性と思いやりの育成			・青少年赤十字（JRC）活動、ボランティア活動、環境保全にかかわる活動等を保護者や地域の方々と実施する。	・青少年赤十字（JRC）活動に登録し、募金活動に参加した。 ・PTAが新一年生保護者説明会において、希望者へのリサイクルウェアの配布を行った。	B	・年度当初にJRC登録式を行うことでボランティア精神を意識させ、社会性と思いやりの心を養っていく。	

重点目標	中期経営目標	短期経営目標	具体的取組	自己評価		次年度に向けての改善策
				達成状況	評価	
地域との連携	子供たち・保護者・地域に関わった誠之小学校	家庭・地域から親しみと信頼を得、誇りに思われる学校	・学校経営方針・教育内容・方法、日常の子供たちの活動状況の積極的な広報・公開の実施。さらに、地域の力を活用した授業及び校外学習の推進を行う。	・学校日より、保健日より、給食日よりを毎月発行した。学年日よりは毎月に加え、長期休業日前や行事実施前にも発行した。 ・1月より、紙媒体による学校側の配信は、極力なくすように努力できた。 ・ホームページ上で児童の活動の様子を毎日更新した。 ・Home&Schoolに変更となったが、スムーズな変更ができ、情報を発信した。	B	・学年ごとのホームページ更新を校務の一つに位置付け、分掌化することで更新回数を多くする。 ・ペーパーレス化を順次進めていく。
		学校関係者評価の充実による学校評価の実施	・より地域に密着した学校となるよう、学校評価の適切な反映を行う。	・学校関係者評価委員会を2回実施することができた。 ・学校評価の結果を公表する。	B	・学校関係者評価委員会や学校運営協議会の意見を教育活動に反映していけるよう、次年度も広く意見を聴取する。
		地域学校協働本部、PTA、誠之学友会、町会等の諸事業への積極的参加	・地域に根差した教育の推進と地域行事等への積極的参加の促進する。	・規模や時間を工夫しながら、親子〇〇教室、こどもひろば、外国語支援(AC)、図書館支援などを実施した。 ・NPO法人「えこお」と連絡・調整をし、放課後全児童対象事業を実施した。	B	・図書ボランティアも本格的に活動を再開した。読み聞かせ(おはなしの森)が再開され、充実した朝の時間を過ごすこともできた。
教育環境の整備	施設・設備の効果的活用と児童に働きかける教育環境の整備	校舎、校庭、校内施設・設備の計画的・効果的活用	・きれいな学校、清掃が行き届き整備された校舎・施設・設備を徹底して行う。また、令和5年度に完成予定の学校改築を見据えた施設・設備の整備を実施する。	・第Ⅱ期校舎完成により、3学期には、4年生全学年が新校舎へ移動し、2年生2クラスも移動できた。会議室と第2音楽室、第2図工室が復活した。さらに、図書室も移動し、閲覧室なども作る事ができた。	B	・第Ⅲ期工事に関する意見調整を積極的に行い、学校関係者の思いをできる限り反映していけるように努める。
		教材・教具の創造・開発・活用	・教育効果を高めるため、身近な事柄を取り上げたり、子供の興味・関心等を生かしたりするなどの創意工夫する。	・ICT機器を活用した教材の利用を進めるとともに、校内の研修を充実させ、教材・教具の開発を進めた。	B	・引き続き、研修の充実を図り、実感を伴った理解につながるよう、教材・教具の開発・活用に努めていく。
		清潔でさわやか、しかも子供たちに働き掛ける教育環境の整備	・居心地、学び心地のよい教育環境の整備を行う。	・来年度、校庭が完成することを見越し、教室配置等を工夫して整備するように校内の体制を整えた。	C	・第Ⅲ期工事終了後を見越しての教室配置についても、相談を進めていく。
		GIGAスクール構想が実現されることを最大限生かした学びの質の向上	・ICT活用のための基盤の整備と子供の情報活用能力の育成を図る。	・タブレット端末の日常的道具化を目指し、多くの授業で取り入れることができた。子供の情報活用能力は高まった。 ・教員のスキルを上げるため、情報教育主任が中心となり研修を重ねることができた。	B	・通信環境を整えることで一人一台タブレットのより安定した動作につながるよう、区に要望を出していく。
		「新しい生活様式」も踏まえた衛生環境の整備や、新しい時代の教室環境に応じた指導体制、必要な施設・設備の整備	・子供たちの健やかな学びの保障を図る。	・担任や看護当番による生活目標周知は行われている。 ・感染予防のための行動を励行しながらも、生活様式を取捨選択し、よりよい教育環境作りを進めた。	B	・二酸化炭素濃度計測器を活用し、安心・安全な生活環境を維持していく。 ・学級増等に伴い、必要な設備等の購入について、区に相談していく。
組織力向上	組織の活力につながる効率的、効果的な学校事務・校務分掌	最小の予算で最大の効果をあげ得る予算執行	・予算の重点的配分、計画的執行、節約等の実施を行う。	・必要であるかどうかを組織的に判断し、校長の決断を仰ぐことができた。	A	・使用していないときの教室の消灯、印刷部数確認、ペーパーレス化をより意識していく。
		組織の一員としての当事者意識の醸成	・互いの信頼関係に基づいた校務運営を実施する。	・学年の指導や校務分掌を行う際に、一人で抱え込まずに組織で動くことを意識できるようになってきた。	B	・意識の高まりを校務改善や働き方改革に繋がるようにしていきたい。
		業務を見える化するとともに、会議を精選し、時間を有効に使う校務の効率化	・開始時刻の厳守励行・事前資料、簡素提案、効率審議・報告事項、協議事項の明確化と電子会議化を行う。	・校務支援システムC4 t hによる情報発信は定着した。 ・職員会議において電子データの活用が定着した。	B	・会議精選をしなければならない。教務でそれぞれの会議の時間設定を確認し、不必要な会議はなくしていく。
		〇JT実施体制の充実による教員の指導力の向上	・教える側と教えられる側の双方向の学び合い、高め合いの組織的・計画的・継続的な取組を行う。さらに、校内における気付きを基にした業務改善に取り組む自立型人材育成を図る。	・指導教諭1名が模範授業を3回実施し、本校教員も多数参加して授業力向上につながった。 ・東京教師道場への参加を促し、来年度2名の教員が参加することが決まった。今まで以上に授業改善が進むような下地ができあがってきた。	B	・ねらいの明示、協働学習の設定、学習の振り返りという展開を意識させ、授業改善に取り組ませていく。
サービスの厳正（勤務時間、研修、文書・現金管理等）	・サービス事故防止に向けた意識や自覚を一層高め、学校教育に対する信頼向上への不断の努力を行う。	・都内のサービス事故情報を回覧し、事故防止意識の向上に努めた。 ・サービス事故防止研修で、不適切な指導や行き過ぎた指導、情報管理について意識を深めた。	B	・報告・連絡・相談を今後も徹底し、サービス事故防止に努めていく。 ・互いに見合い、意見し合える環境を今後も大切にしていく。		

評価基準 A：十分な成果があった B：成果があった C：改善した方がよい (D：改善を要する)